

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570909416		
法人名	有限会社 くおん		
事業所名	グループホーム くおん A棟		
所在地	秋田県鹿角市八幡平字堰の下108番地		
自己評価作成日	令和5年8月21日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

春夏秋冬 季節を目で肌で感じられる自然豊かな環境にあります。日々ゆったりと一日が過ぎるような雰囲気の中で安心して頂くよう努めております。
 ・冬が長いので陽が出る日は出来るだけ外で、日光浴、外気浴を行っています。
 ・(目の前の田んぼの様子や作業内容を見て、目で季節を感じる事が出来る。また、外気に触れることで肌でも季節を感じる事が出来る。自然を目にすることで、昔話をしたり会話の糸口になったりしている。)
 ・入居者さんの重度化が進んでいる状況で、入居者さんとそのご家族さんの安心に繋がるように訪問歯科に行って頂き外部からのお力添えを頂いている。
 ・外部研修についてはオンライン研修を会社経費で受講して頂き、職員の資質向上、資格取得に努めております。また、毎月計画にそって社内研修を行っています。
 ・災害時の対応力強化について、一昨年、ガスを燃料とした外部電源工事が完了しました。有事の際、3日分の冷凍食糧の備蓄とあわせて入居者さんにはご迷惑をお掛けしない普段通りの生活を送る事が出来るかと思。あわせて推進会議の中で地域の方へ有事の際は地域の高齢者を受入れる体制が整っている旨をお伝えしており有事の際は地域の一助となるかと考えている。※自社保有している発電機の貸出についてもお伝えしている。
 ・今年度は、災害を想定しガスを熱源にしたエアコン設備導入を予定している。電気とガスを併用する事で、災害の長期化に備える大勢を構築する。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和5年9月13日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

八幡平の裾野を背に、目の前には広大な田んぼと河川が広がり、利用者は自然に囲まれ季節を感じながら過ごすことができている。入居までの馴染みの関係性や、地域社会とのつながりを大事にするのとともに、本人の想いを積極的に支援に反映させていきたいという事業所の方針が、利用者支援に活かされている。職員は職場のバックアップにより積極的に研修などに参加し自己研鑽を重ねており、成長しながらやりがいをもって業務にあたっている。また、風通しの良い職場であり、皆の意見がケアへ反映され利用者の笑顔につながっている。今年度は特に地域への協力体制作りにも力を入れており、非常時の避難場所としての受け入れや、炊き出し等の支援に対応出来るよう電気設備と体制を整えるよう進めており、地域との関係づくりに積極的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
47 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	54 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
50 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57 職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年社内研修の中で理念を職員一人ひとりが共有できる機会を設け、入居者さんの満足を追求している。介護方法に迷った時は理念を思い出し対応する様にしている。	「ゆとり・いたわり・思いやり」の理念を掲げ、研修等を通して職員間での周知に努めている。職員の中には、この理念に感銘を受け、就職することを決めたと話す方もおり、職員にとっても支援の根幹となっているようである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス5類へ移行となりましたが、まだまだ思う様に交流出来ていないのが現実ですが、地域商店の移動販売、地域の理髪店の出張。外気浴時の挨拶を交わす事しか出来ていない。	感染症や猛暑の影響から、以前に比べ外出の機会は減ってしまっている現状ではあるが、天候をみながら散歩や地域の神社へのお参り等可能な限り外出を取り入れた支援を行っている。施設外からの来訪も困難な状況が続いているが、9月には民謡会のボランティアの受け入れを予定しており、交流が深められるよう検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域の独居高齢者について近所の方から相談を受けたり助言を求められたりケアマネジャーが個々に対応している。 小学生の職場体験や見学を受け入れる機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染対策、身体拘束、利用料改定などについて協議した。火災想定避難訓練について地域の方の協力を内諾を頂き、災害時には当施設の設備を地域へ開放する事を了承している。	市の職員や地域の代表、家族からは2人の方に委員として協力いただきながら、多角的な意見が出され、施設の運営に活かしている。特に今年度は、施設機能を広く地域に還元することを目的とし、非常時の避難場所としての受け入れや、炊き出し等の支援に対応出来るよう電気設備を整える等施設機能の整備を実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	加算など疑問点を都度相談し情報を交換している。 ケアマネジャー連絡会議を2ヵ月1度開催し情報交換をしている。 (オンラインで) 運営推進会議には毎回参加して頂いている。	運営推進委員会への参加では、施設の運営について助言をいただくと共に、加算やケアプランの相談、補助金や感染症対応への公的支援等、随時相談、連携しながら進めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社から資料を職員個々に配布したり、関連資料を休憩室に設置してもらっている。毎月の社内研修でも話し合い取り組んでいる。また、日々の申し送り後、スタッフ間で話し合う時間を設けており声のトーンであったり言葉掛けの内容がどうだったかスタッフ間で注意している。	身体拘束廃止委員会を定期的開催し、その内容は職員に周知されている。また虐待防止に係る研修も実施し、職員間でも虐待につながらない支援についての検討がなされている。一人ひとりの状態に合った介護を実践しており、身体拘束をしないケアに結び付けている。	
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修、身体拘束廃止委員会の中で取り上げられて勉強している。問題点が出た場合話し合いをしている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に、ご家族さんや親類の方から必ず施設を見学し雰囲気を確認してもらい納得して頂いてからの契約となっている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	投書箱の設置や毎月のサービス提供表にご家族さんからの意見や要望を記載する欄があり些細な事でも意見を頂戴する機会を設けている。推進会議委員に家族代表者2名から意見を頂戴しています。	月毎に、サービスの実施内容、実施後の評価、カンファレンスでの検討内容をまとめ、毎月家族に報告している。報告様式には、家族からの要望を聞き取る欄も設けられている、記載内容は次回のサービス提供に役立てられている。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	代表者、管理者もシフトに入り話やすい状況かと思う。意見、希望が出しやすい。社外研修の案内を休憩室に設置しており興味がある研修には参加させてもらっている。センサーマットなど必要な物品があれば相談し購入してもらっている。新たな入職者には研修を必ず受講してもらい経験年数に応じて資格取得のサポートをしてもらっている。初任者研修、基礎研修、実務者研修、介護福祉士、ケアマネージャー取得の費用は会社が負担してもらっている。	職員は管理者等上司に対して意見の出しやすい関係性がつくられていた。消火器の軽量化や危険回避のセンサーマットの導入など、日々の業務における職員の要望にタイムリーに対応しており、こうした管理側の対応が職員のやる気につながっている。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナにより思う様に交流出来ていない。研修会もオンラインとなり直接交流する機会がないが、研修で得た情報はスタッフ間で共有する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の情報を大切にしている。訴えられる方そうでない方もおり普通の会話や行動を重要と思っている。また、情報を職員間で共有し信頼関係の構築に努めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族さんの施設見学もそうだが、入居前にケアマネージャーと職員で自宅へ何度かお邪魔させていただき入居時には「顔見知り」の関係を構築する様にしている。自宅の方がご家族さんの不安など意見が出やすい様に思う。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居時の情報を元に、本人の出来る事。得意とする事を本人の役割として職員と共に同じ時間を共有している。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護計画にサインを頂戴する際、ご家族さんの意見、希望を問う。感染対策を講じながら出来るだけ面会を行ってもらっている。また、記念日などの写真を送付している。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	入居時には、馴染みの私物を持ち込んで頂いている。自宅やお寺など入居者さんに関連する場所へドライブへ出掛けるなどで支援している。	入居前の生活を可能な限り把握し、継続できるよう努めている。お寺参りの他、年に2回は本人の自宅を訪れることとしており、馴染みの景色から懐かしさを思い起こすことができるよう支援している。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さんが自然と自分から話が出る相手を持ち助け合っている。時には職員が仲立ちして関係づくりができる様にしている。更衣を手伝ったり車いすを押し散歩している姿みられる。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もあった時など話を聞いたり衣料販売している方のところで衣類購入したり関係を継続している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	月初めのお茶の時間に希望や意向を聞いて紙に書き貼りだし実行する様に努めている。また、七夕の短冊、クリスマスの時に話を聞いて思いを聞く様にしている。普段の何気ない会話から思い希望を吸い上げスタッフ間で共有している。	生活の場面や、皆で継続している日記、行事等を通して要望や想いを汲み取っている。月の初めには、利用者から希望を書き出してもらおう事としており、その内容は職員で共有しながら、想いの実現を月の目標に掲げ達成に向け努力している。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報をスタッフ間で情報を共有している。入居後は出来るだけ会話時間を増やし少しでも情報を得て記録に残しスタッフ間で共有している。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	毎月の介護計画を全員必ず確認し日常の変化があった場合、話し合い見直しをしている。毎日の申し送りの中で情報を共有し残存機能、事故防止などを確認している。	職員は、利用者のニーズを日々の生活から汲取り、スタッフ会議で確認・話し合い、介護計画を作成している。作成された計画は、支援者が随時確認出来るよう配慮している。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	介護記録、業務日誌を元にカンファレンスを行い検証、カンファレンスを繰り返している。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の商店から協力してもらい移動販売をしてもらっている。入居者さんは顔馴染みとなった商店の方と会話しながら自分のペースで生活し慣れた場所でゆっくりと選び、支払いの計算をすることが出来ている。散髪も地域の理髪店から行ってもらっている。中には入居前から散髪してもらっている方もおり地域の共通の話題で盛り上げている。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は入居時のままお世話になっていません。歯科に関しては、訪問歯科を利用させてもらい入居時にカルテを作成してもらい特変時は直ぐに対応してもらえる様にバックアップしています。薬局は配達をしてもらうなど薬について不明な時など説明してもらうなど密な関係を構築出来ている。	職員対応で、入居前からのかかりつけ医を継続している他、歯科については訪問歯科にて対応している。通院内容は家族にも報告し、受診結果を共有している。かかりつけ薬局については、配達、一包化等の相談にも対応してくれるなど、協力体制を得ながら進めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職、訪問看護師は不在ですが、受診前には必ず主治医へ伝える内容、普段の様子をスタッフ全員で話し合い受診に臨んでいる。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際には細部にわたり情報を医療機関へ提出している。入院中も入居者さんの様子を変化を医療連携室を介し情報を得ている。ご家族さんとも連絡を密にし事細かな情報を得て退院時に備えている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に当施設で出来る事を説明し契約している。また、受診の際に主治医から現在の状況をご家族さんへ説明してもらい今後の事を協議している。	入居時に重度化の対応、医療連携体制の指針について説明し、施設で提供可能な支援について、同意をいただいている。終末期医療の提供体制構築が困難な状況ではあるが、かかりつけ医と連携しながら、可能な限り対応することとしている。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各種マニュアルを配布しているが、職員により知識、手当てする力がバラバラの様思う。心肺蘇生法の社内研修を行ったが、役に立った場面がありました。地域のAEDの設置場所の確認を行いました。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いのもと避難訓練をおこないました。その際の助言を頂戴し再度助言を反映した全員参加の避難訓練を行いました。推進会議の中で地域の方、消防団の方へも協力の打診をいたしました。	火災、地震等の災害に備えた避難訓練を実施している。訓練結果から効果的な避難のために、緊急時使用の車椅子を計6カ所に配置している。訓練を通して、いざという時の確実な対応を都度検討している。	
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内研修から得た知識を活かしトイレ誘導時の声掛けのトーンだったり目線の高さに気を付けています。トイレ内での転倒防止対応には、可能な限りプライバシーに配慮した対応を心掛けている。	利用者のプライバシーの確保については、研修を実施しながら理解を深めている。本人の身体状況や安全確保も踏まえながら、プライバシーへの配慮と安全な支援方法を検討している。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、入浴時、外出時など鏡の前に誘導し身なりを整えて頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	得意とする方から食器の片付けを職員と共に行っています。カロリー計算された冷凍食品を使用しております。また、行事食の献立となっており食事からも季節を感じる事が出来る。職員も食事中メニューの説明をし会話しながら摂って頂いております。地域の方かた頂いた山菜等は入居者さん同士が昔話をしながら下準備して下さっています。	食中毒の予防、カロリー管理などから冷凍食品を使用しつつ、地域の方に貰った山菜等を活用し、手作り料理を1品合わせて提供している。また3時のおやつには、手作りのお菓子を提供するよう心掛けている。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はカロリー計算されたものを提供しておりますが、主治医からカロリー制限あったり薬との兼ね合いも十分に留意し支援している。水分も同様に主治医からアドバイス頂きトロミを付け提供したり季節で摂取量を調整したりゼリーを提供したりと工夫しております。(チェック表に記入)		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師の助言、アドバイスを頂戴し対応している。夜間は入れ歯を預かり洗浄しているが、時折、嫌がる方もおりますが、歯科Drからのアドバイス等を説明し食事後1日3度口腔ケアしてもらっています。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基にトイレ声掛けを行い、夜間オムツ使用している方でも日中は布パンツにし支援しております。入居者さん個々の状態にあわせ夜間でも失敗しないように居室にPトイレを設置し時間で声掛けする方もおります。(センサーマットも活用している)	紙パンツやオムツに頼ることなく、トイレ誘導等で自立した排泄を心掛けている。一人ひとり身体状況に合わせて、その人なりのサインを把握しながら個別の排泄支援を行っている。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	少しでも薬に頼らない様に水分摂取量はもちろんラジオ体操 散歩床に座位になっての運動を日々行っています。		
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	体調、バイタル確認し行っています。重度化により職員2人で対応する方もおりますが、職員の勤務時間の関係から希望通りに行えていないの多いかと思う。しかし入浴中に職員との会話や好きな音楽を聴きながらの入浴で支援しています。受診から戻ると入浴して頂いております。	行事や受診などを配慮しながら最低週2回は入浴の機会を設けている。本人の希望で、夕食後や夜間入浴の対応もしていた。排泄に失敗したときなど緊急時にはシャワー浴などで身体の保清を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に運動を中心に活動してもらえるように心掛けている。日中の職員が多数いる時間帯に話を傾聴するなど入居者さんの不安要素を夜間に持ち込まない様になっています。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人ひとりが受診記録や処方箋を確認し把握しているか疑問もあるが、処方内容が変更となった時など様子の変化に留意する事を申し合わせている。分からない部分は、かかりつけ薬局や主治医に相談し理解するようにしております。また、誤薬、飲み忘れがない様にチェック表を用いています。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意とする家事を積極的に行ってもらっています。入居者さんは感謝されることで笑顔になったり気概を持ちメリハリある生活に結び付けています。また、天気の良い日は外に出て景色を見たり農作業を見て昔話をされたりしています。 毎月、個々から希望を出してもらいそれに添える様に努めております。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外出が出来ていないが、馴染みある場所へドライブしたり季節によって花畑を見学にいたり受診後に自宅付近へ出掛けてみたり今出来る事を精一杯行っているつもりです。	猛暑と感染症の状況もあり、都度状況を見ながら外出支援を行っている。散歩、地域のお寺参り等で住民との触れ合いや関係性を大切にしており、また通院時等を利用して自宅付近にまで出掛けるなど、出来る事に取り組んでいる。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各週で地域の商店から移動販売を行ってもらっています。施設内での買い物となる為、住み慣れた空間で時間を気にせずゆっくりと嗜好品を選定し時間を掛け支払金額を計算出来る様にしております。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、共有スペースから中庭の植物が見え季節を目で見る工夫となっている。居室の前、浴室、トイレに手書きで大きく見えやすく表示している。	天井が高く、明るい日差しが差し込んでいます。中庭には季節を感じられる花が咲いており、落ち着いた雰囲気となっている。利用者同士の関係性に配慮しながら、一人ひとりの空間が持てるようなつくりとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前の椅子の配置、食席の配置を工夫している。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族さんが持って来られたプレゼントなどご家族さんとの「つながり」を飾ったり入居時には、使い慣れた私物や馴染みの者を持ち込んでもらい住み慣れた空間づくりを心掛けている。自室へ入った際には「ここ私の部屋だ」と認識されている。	居室には、備え付けのベッドやタンス、広い収納があり、ゆったりとした作りになっている。入居者はそれぞれ仏壇、家具、寝具類など使い慣れた馴染みの物を使用し、その人らしい居室への配慮がされている。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表記を入居者さんの目線の高さに合わせている。 洗濯たたみ、洗濯干し、食器拭き、ボタン付けを行って頂いています。		